水稲の生育状況と今後の管理対策（第６号）

令和２年７月 21 日
新潟県農林水産部

〔７月 20 日現在の生育状況〕

コシヒカリ

◎　指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「やや長い」、葉数の進みは「並」の状況です。葉色は県平均では「やや濃い」、茎数も県平均では「並」ですが、地域差が大きい状況です。

新　之　助

◎　指標値に比べ、草丈は「やや長い」、葉数の進みは「並」、ですが、茎数と葉色は地域差が大きく、茎数は「少ない～多い」、葉色は「並～濃い」状況です。

〔気象予報と今後の生育見込み〕

◎　７月 16 日発表の１か月予報（７月 18 日から８月 17 日まで）によると、７月末までは曇りや雨の日が多い状況が続く見込みで、８月に入ると平年同様、晴れの日が多くなり、気温は平年並または高い確率ともに 40%と予想されています。

◎　コシヒカリの出穂期は県平均で平年並の８月５日頃、新之助は平年より１日遅い８月 11 日頃と見込まれています。

◎　７月上旬からの長雨と低温・少照により、草丈が伸長し、葉色はやや濃い状況ですが、梅雨明け後から８月は高温が見込まれるため、生育診断に基づき、晴れ間を逃さず、穂肥[*1] を施用することが重要です。

〔管理対策のポイント〕　★は重要ポイント

早 生 品 種

★　登熟期間中の高温に対応するため、出穂期 25 日後まで飽水管理[*2] を継続して根の活力を維持し、後期栄養を確保しましょう。

★　本年は平年に比べカメムシ類の発生が多く、注意報が出ています。カメムシ類による斑点米被害を抑えるため、出穂状況を確認しながら、適期を逃さず防除を実施しましょう。

・　多収栽培で肥料を多く施用したほ場では、いもち病が発生しやすいため、葉いもちの発生を確認した場合は、速やかに薬剤防除を行いましょう。

コシヒカリ

★　２回目の穂肥は、出穂期 10 日前をめやすに必ず施用しましょう。１回目の穂肥を施用していないほ場でも、幼穂長や葉色を確認するなどの生育診断を行った上で、適正な量の穂肥を確実に施用してください。

★　梅雨明け後の高温により、２回目の穂肥以降に葉色が指標値を下回ると想定される場合には、地域の農業普及指導センターや JA 等の技術情報に注意して、追肥（３回目穂肥）を検討してください。

★　全量基肥施肥[*3]のほ場で、葉色の急激な低下が認められる場合にも、２回目の穂肥時期をめやすに追肥（追加穂肥）を検討してください。

・　有機質 100%肥料を利用する場合は、化学肥料よりも早めに施用しましょう。

・　根の活力維持と上根の発生促進を図るため、飽水管理を徹底しましょう。

★　平年に比べ、主要な加害種であるアカスジカスミカメの発生がやや多いので、斑点米カメムシ類の被害を抑えるため、計画的な除草と防除を確実に実施しましょう。

新　之　助

★　葉いもちの感染好適条件が続いており、各地域で発生が確認され、今後、発病の増加が見込まれます。

　新之助はいもち病抵抗性が弱いので、病斑を確認した場合は速やかに薬剤防除を行いましょう。

★　地域の農業普及指導センターや JA 等の技術情報を参考に、幼穂形成期の草丈と葉色に基づいた適正量の穂肥を施用し、「食味・品質基準」を達成するための適正な籾数に誘導しましょう。

・　全量基肥施肥では、幼穂形成期以降、葉色が低下してもその後回復するので、葉色の推移等生育に注意するとともに、異常高温時において栄養凋落が予想される場合には追肥を検討しましょう。

*1 穂肥：穂が出る前に追肥すること
*2 飽水管理：土壌を湿潤状態に保つこと
*3 全量基肥施肥：全生育期間に必要な肥料成分を、田植え前又は田植え時に一括して施す施肥法

熱中症予防

★　梅雨明け以降、厳しい暑さが見込まれます。農作業時は水分補給や休憩時間を十分に確保するなどの熱中症予防と健康管理に十分注意しましょう。

◎　今後の管理対策発信予定日　　７月 28 日・31 日、８月 21 日、９月 11 日

〔補足資料〕

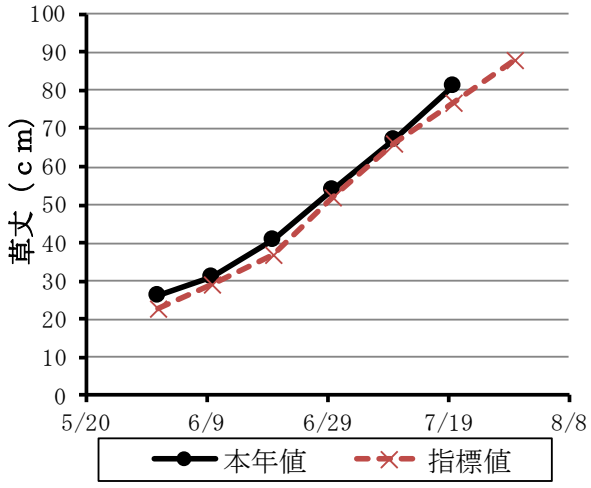
1　農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（7月20日現在）

コシヒカリ

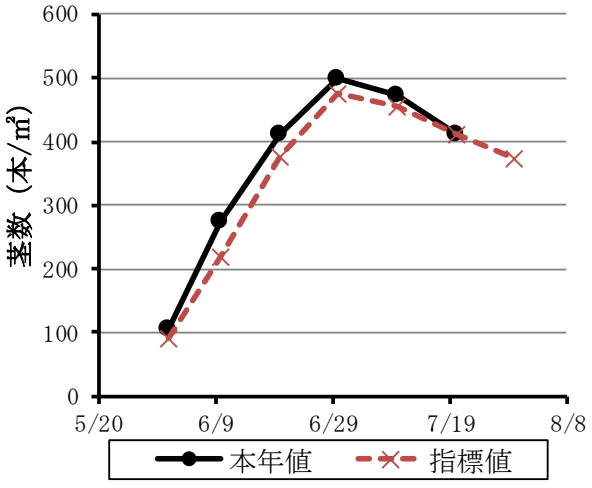
○　指標値に比べ、草丈は「やや長い」、葉数の進みは「並」の状況です。葉色は県平均では「やや濃い」、茎数も県平均では「並」ですが、地域差が大きい状況です。

項目	本年値	指標値（県平均）	指標値との比較	指標値比・差
草丈	81 cm	77 cm	やや長い	105%
茎数	412 本/㎡	411 本/㎡	並	100%
葉数	12.2 葉	12.0 葉	並	+0.2 葉
葉色（SPAD 値）	34.7	33.3	やや濃い	1.4

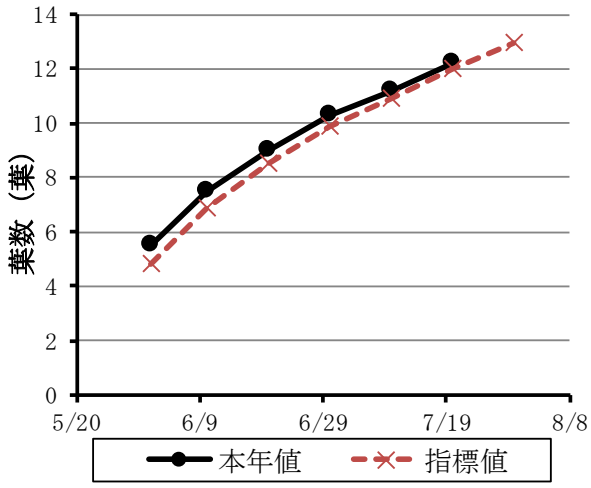
注）県内全域の 116 生育調査ほデータの平均値（田植え 5 月 10 日、栽植密度 16.9 株/㎡）



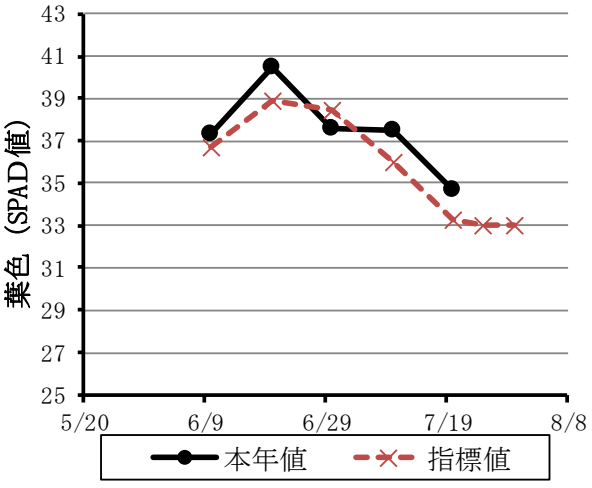
草丈の推移
（県全体）



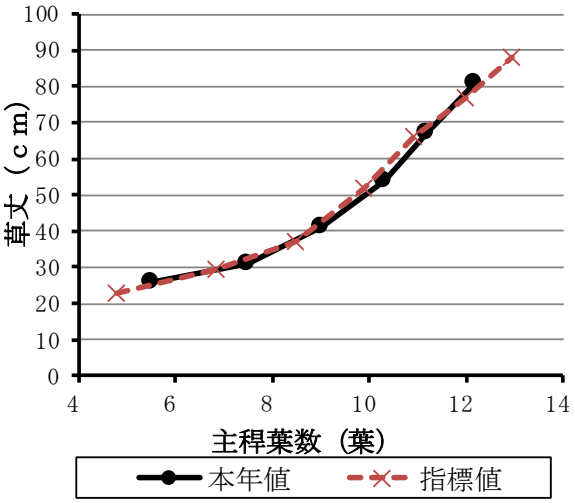
茎数の推移
（県全体）



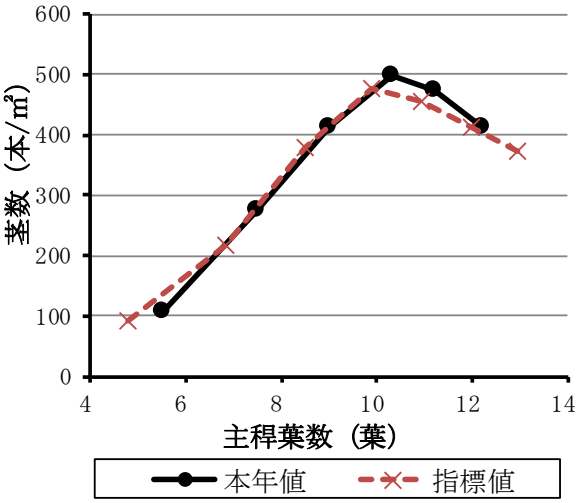
葉数の推移
（県全体）



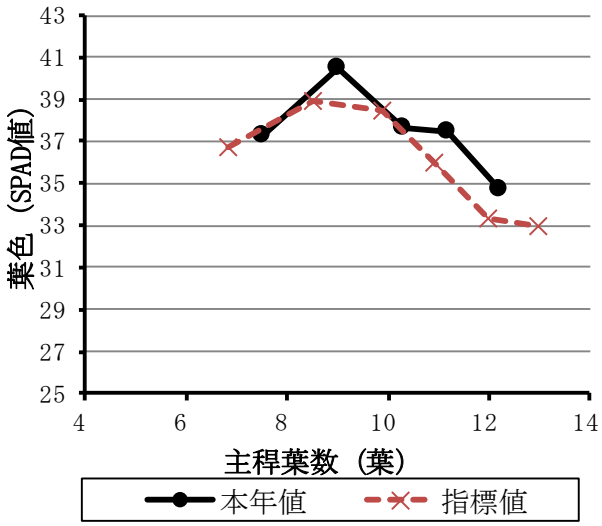
葉色の推移
（県全体）



葉数と草丈
（県全体）



葉数と茎数
（県全体）



葉数と葉色
（県全体）

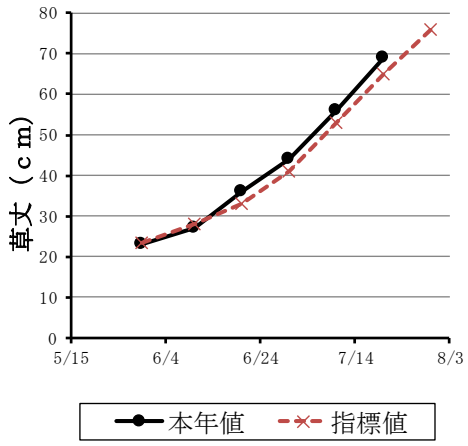
◎　出穂期は平年並の８月５日頃と見込まれます（全県の予測）。

新之助

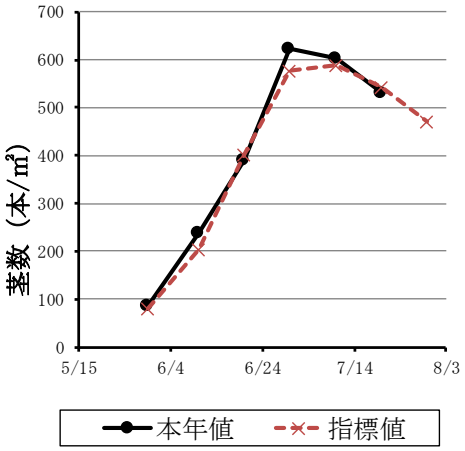
○　指標値に比べ、草丈は「やや長い」、葉数の進みは「並」ですが、茎数と葉色は地域差が大きく、茎数は「少ない～多い」、葉色は「並～濃い」状況です。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	69 cm	65 cm	やや長い	106%
茎数	530 本/㎡	543 本/㎡	並	98%
葉数	12.5 葉	12.2 葉	並	+0.3 葉
葉色 (SPAD 値)	36.7	34.1	濃い	+2.6

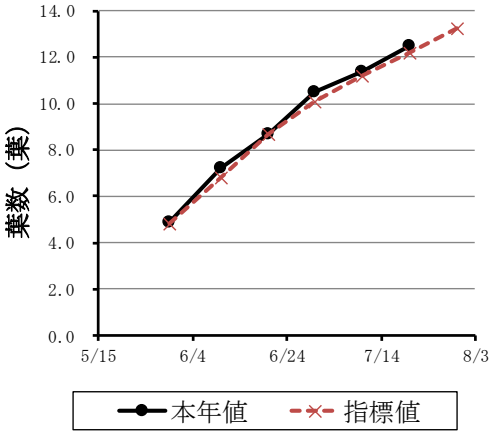
注）県内全域の 15 生育調査ほデータの平均値（田植え 5 月 17 日、栽植密度 16.0 株/㎡）



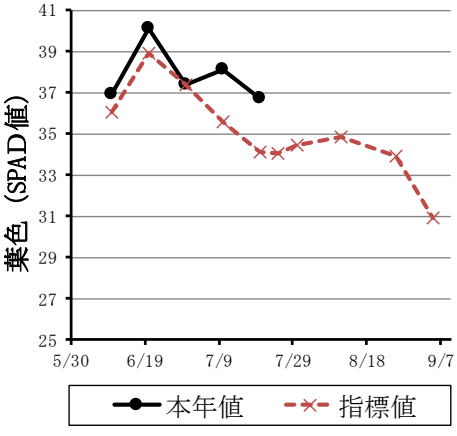
草丈の推移



茎数の推移



葉数の推移



葉色の推移

◎　出穂期は平年より１日遅い８月 11 日頃と見込まれます（全県の予測）。

こしいぶき

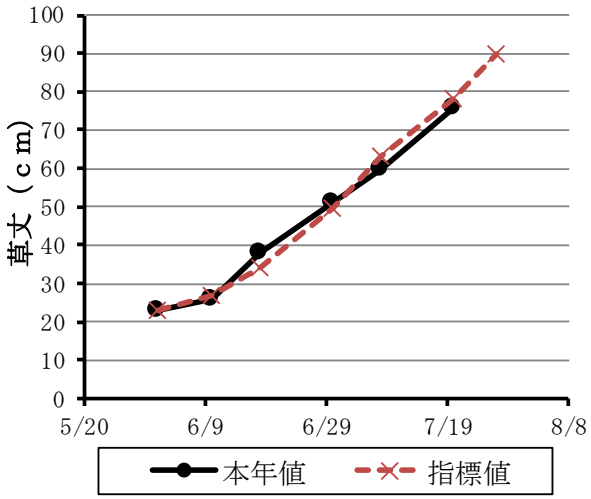
○　指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや多い」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「濃い」状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	76 cm	78 cm	並	97%
茎数	500 本/㎡	466 本/㎡	やや多い	107%
葉数	13.1 葉	12.7 葉	やや早い	+0.4 葉
葉色（SPAD 値）	39.2	36.7	濃い	+2.7

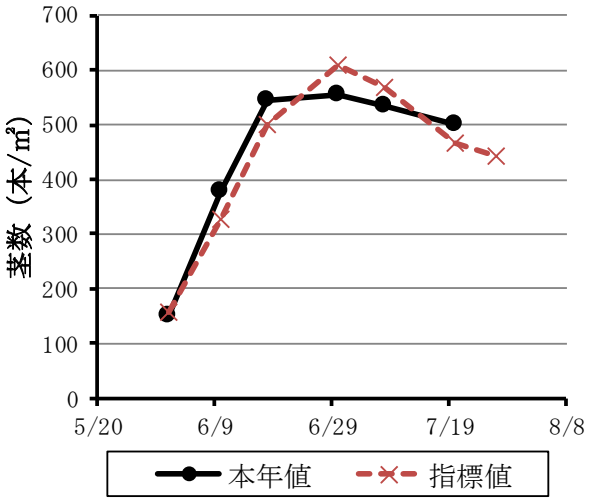
注１）化学肥料栽培　田植え５月 11 日、栽植密度は 19.8 株/㎡

注２）基肥窒素成分量　3.0kg/10a、穂肥窒素成分量　1.0＋1.0kg/10a(1 回目：7/6、2 回目：7/14)

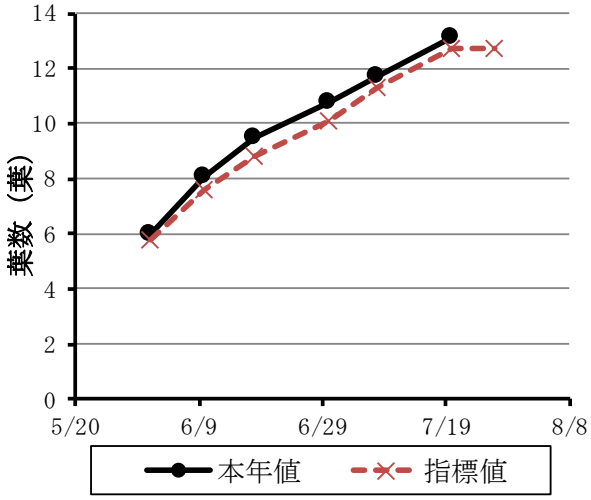
注３）長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ



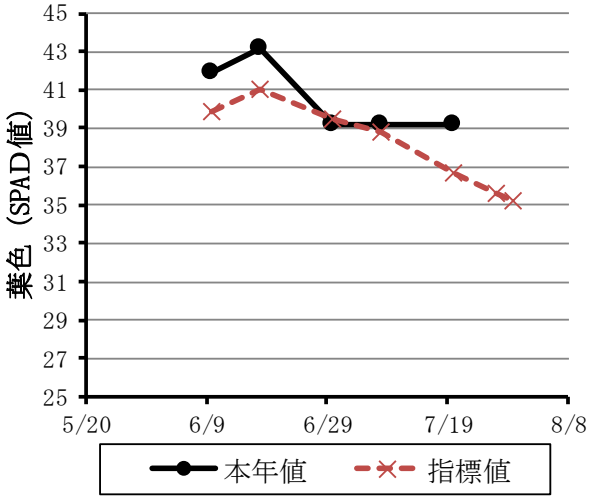
草丈の推移



茎数の推移



葉数の推移



葉色の推移

◎　出穂期は平年より２日早い７月 25 日頃と見込まれます（全県の予測）。

ゆきん子舞

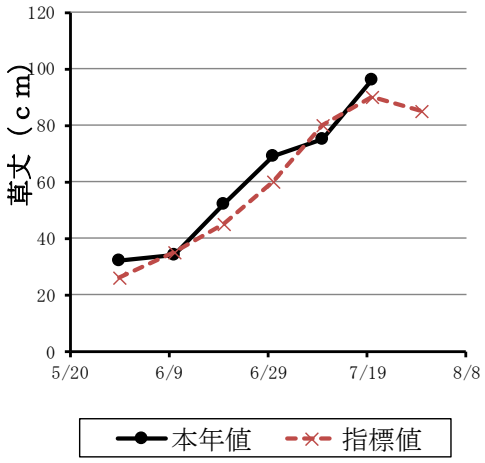
○　指標値に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「早い」、葉色は「濃い」状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	96 cm	90 cm	やや長い	107%
茎数	474 本/㎡	480 本/㎡	並	99%
葉数	13.1 葉	12.3 葉	早い	+0.8 葉
葉色（SPAD 値）	39.0	37.0	濃い	+2.0

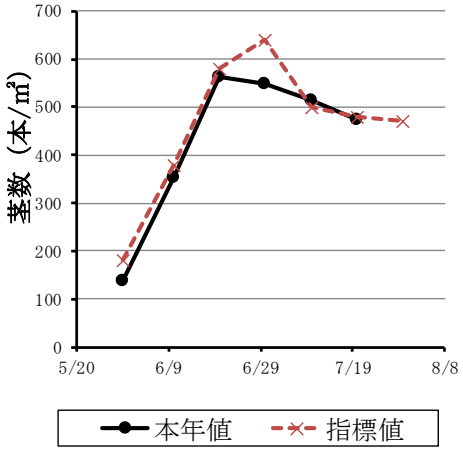
注１）化学肥料栽培　田植え５月１日、栽植密度は 18.6 株/㎡

注２）基肥窒素成分量　2.8kg/10a（前作枝豆）、穂肥窒素成分量 2.3＋2.3kg/10a（1 回目：6/29、2 回目：7/6）

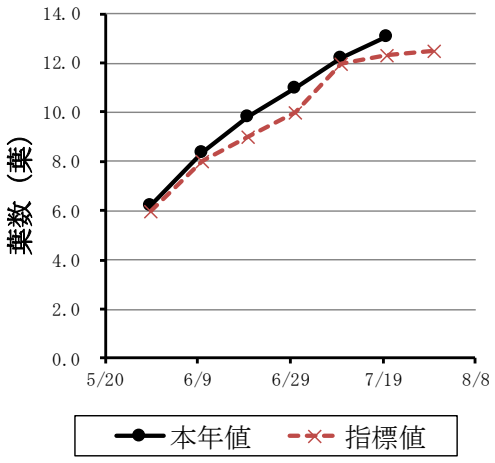
注３）長岡市高野町の生育調査ほデータ



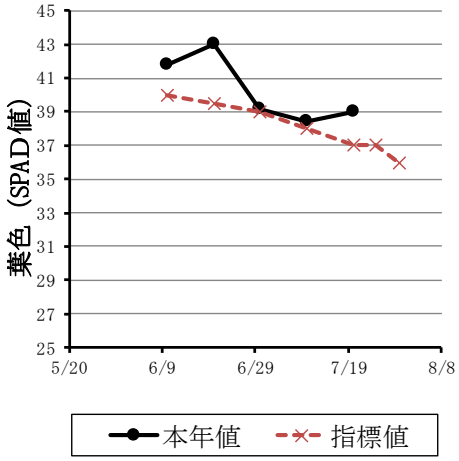
草丈の推移



茎数の推移



葉数の推移



葉色の推移

◎　出穂期は７月 24 日頃と見込まれます。

つきあかり

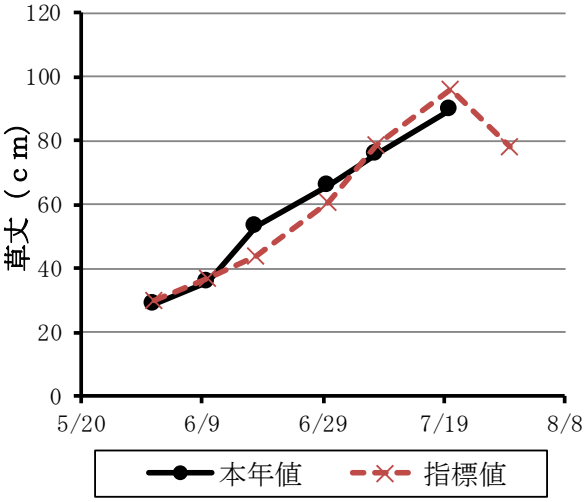
○　指標値に比べ、草丈は「やや短い」、茎数は「並」、葉数の進みは「並」、葉色は「やや濃い」状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	90 cm	96 cm	やや短い	94%
茎数	439 本/㎡	425 本/㎡	並	103%
葉数	12.1 葉	12.0 葉	並	+0.1 葉
葉色（SPAD 値）	45.1	44.0	やや濃い	+1.1

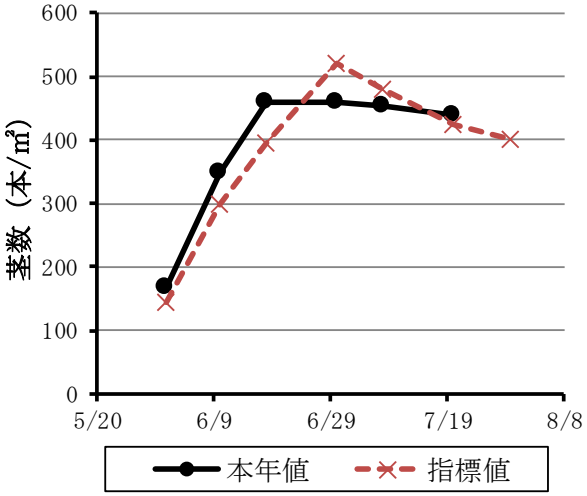
注１）化学肥料栽培　田植え５月７日、栽植密度は 21.2 株/㎡

注２）基肥窒素成分量　7.0kg/10a、穂肥窒素成分量　3.0＋3.0kg/10a(1 回目：6/29、2 回目：7/7)

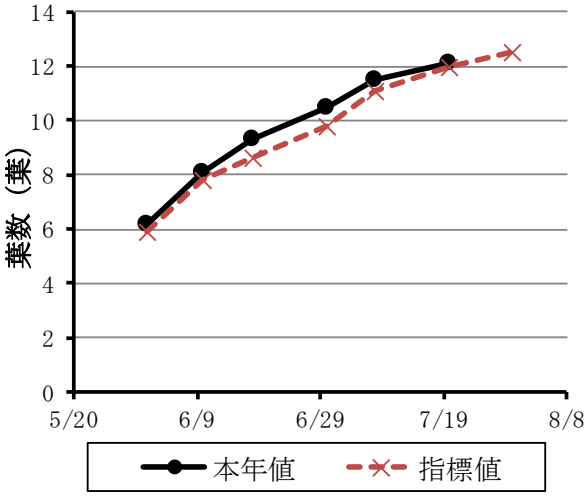
注３）長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ



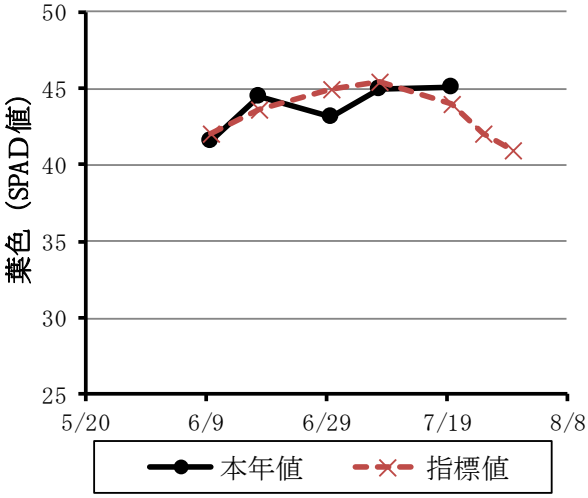
草丈の推移



茎数の推移



葉数の推移

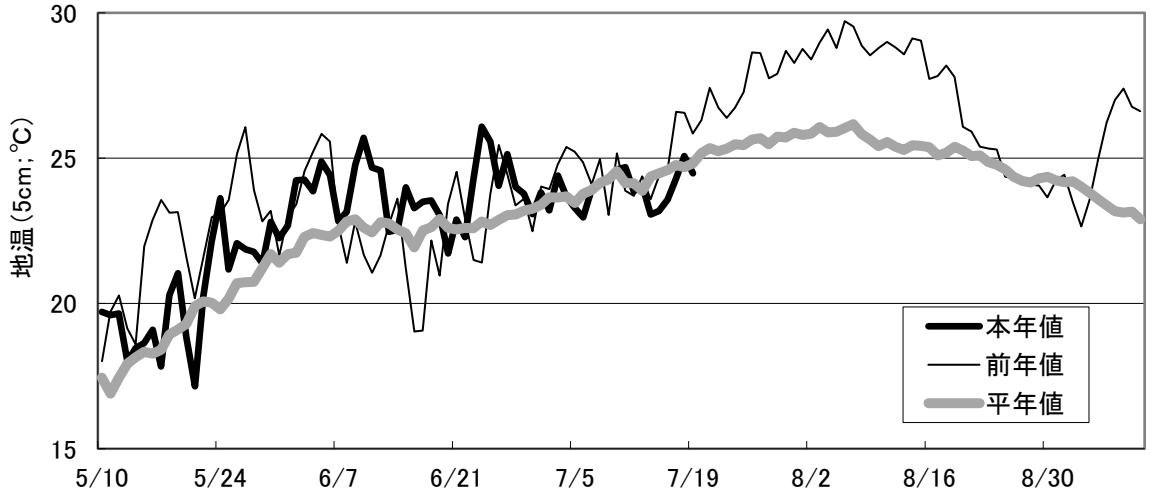


葉色の推移

◎　出穂期は前年並の７月 23 日頃と見込まれます。

2　地力窒素の発現状況

○　7/8～7/19の期間の日平均地温は平年差-0.3℃で、この期間の地力窒素の発現量は、平年並となりました。



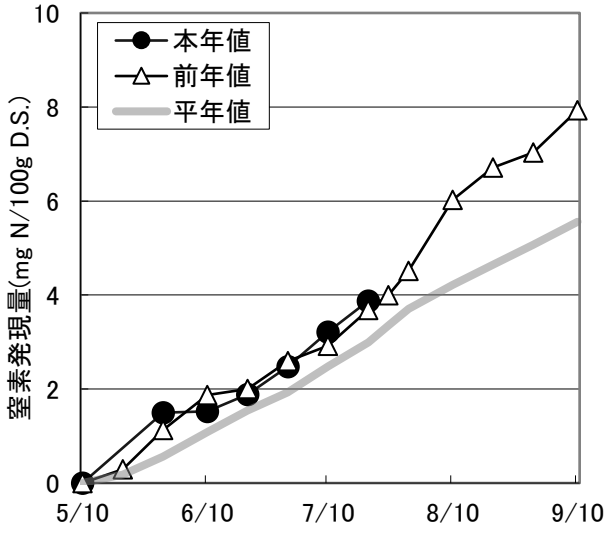
地温（５㎝）の推移

地力窒素の発現状況（農総研基盤研究部調査）　　(mgN/100g)

	7月8日①	7月19日②	地力窒素発現量※1 (③＝②－①)
本年値	5.2	5.9	0.7
前年値	6.5	7.3	0.8
平年値	4.8	5.3	0.5

※１　小数点２ケタ目の四捨五入の関係で、表中の数値の引き算と合わない場合がある。

※２　化学肥料でN成分3.5kg/10a施用。移植日：本年５月11日（平年５月10日）。



地力窒素の発現推移
（初期値を０とした）